

日照条件の違いによる耐陰性樹種の生育についての調査 (平成30年度～32年度)

1 目的

緑化用樹木は、種類によって異なる生育環境を好むことから、植栽する場合は、環境に適した樹種を選定することが求められます。

近年、様々な住宅事情等により、十分な日照が確保できない日陰に植栽をせざるをえない事例が数多く見受けられます。このような生育困難な環境下においても、植栽する樹木を選ぶことにより、日陰でも生育できる樹種の活用の場を広げることができます。

そこで、どんな樹種が、どの程度の日照条件で健全な生育が期待できるか調査を行っています。

2 調査内容

(1) 調査樹種

一般に植栽されている樹種の中で、文献などで比較的に耐陰性が強いものとして紹介されているもので、消費者が手軽に入手しやすい樹種を選定しています。

また、生育状況を比較するために陽樹についても調査に加えました。

・樹種名

①アオキ②オタフクナンテン③カクレミノ④センリョウ⑤ツバキ⑥トベラ（陽樹）

・・・以上、6樹種を選定しています。

(2) 調査区の設定

人工的に日照を抑制制限する遮光を行い、明るさの異なる4調査区を設定し、各調査区にそれぞれ調査樹種を配置し、生育状況を調査しています。

また、併せて、日照に制限を加えない対照区を設定しています。

(3) 照度測定

調査区毎に照度計を用いて、照度を測定しています。

また、障害物のない全天の照度も測定し、比較しています。

(4) 樹高測定など

測定方法は、苗木の樹高や枝張りなどを計測し、調査区毎に生長を確認しています。

3 状況写真



調査区全景(外観)(H30.3.14)



調査区全景(内部の状況)(H30.3.14)



調査区B(寒冷紗一重で覆い)の内部
(H30.3.14)

